

事例レポート

高学年において、年間70時間を確保して授業を行っている学校取材しました。どのように時間を設定したのか、限られた時間で効率的に授業を行うために工夫していることは何か、などをお聞きしました。



特集

授業時間、
どう確保する？

事例1 東京都荒川区立

尾久第六小学校

教師も子どもたちも取り組みやすい15分の学習

週1時間(45分)+短時間学習(15分)×週3回

担任一人でも行いやすい「短時間学習」

「英語が不得手なので、短時間学習のほうが、気負わずに授業ができます」。そう話すのは、荒川区立尾久第六小学校で6年生を担任する石澤克紀先生。英語の専科ではないそうだが、子どもたちのため、前向きに英語の授業に取り組んでいる。

東京都荒川区は、「荒川区小学校英語科指導指針」に基づき、区内の全小学校の全学年で教科として英語の授業を行っている。同校では、2016年度まで全学年で週1時間(45分)の授業を行っており、今年度からは文部科学省の外国語教育強化地域拠点事業の拠点校として、週1時間の授業にプラスして、短時間学習(15分)を取り入れている。

短時間学習を導入した経緯を、石塚吉之校長

はこう話す。「週1時間の授業は、学級担任、NEA(Native English Assistantの略。ALTのこと)、区から派遣される英語アドバイザーの3名で行っています。しかし、もう1時間増やすとなると、その増えた分については、予算の関係でNEAやアドバイザーに来てもらうことができません。担任が一人で45分の授業を行うことになり、その負担は大きいのではないかと思います。そこで、45分を週3回に分けることにしました。15分だったら、担任一人でも取り組みやすいのではないかと考えたんです」。

同校では長年、5時間目の前に「マスタートタイム」という漢字や計算のドリル練習等を行う習熟の時間を10分設けている。この時間を5分拡大して、短時間学習に充てることにした。週5回の「マスタートタイム」のうち、中学年は1回、高学年は3回が英語の短時間学習となる。

コンパクトでも充実した時間

実際に、6年生の短時間学習を見学させてもらった。始業のチャイムが鳴り、"Hello, everyone! How are you?"と石澤先生が投げかけると、子どもたちが声を合わせて、"I'm fine, thank you. And you?"と応じる。先生は"I'm happy, because I have new pants!"と、自分が履いているズボンを指し、おどけてみせた。子どもたちは"Wow!"と言いながら笑う。

45分授業の場合は、"How are you?"と教師が尋ねた後、"I'm hungry." "I'm sleepy."などと、それぞれの気持ちを答えさせ、さらにその日の天気や曜日についても尋ねるが、短時間学習では思い切って割愛し、すぐに本題へ入る。

同校では、短時間学習を「45分授業で習得した力を活用してチャレンジする時間」と位置づけ、高学年では、*Oxford Reading Tree*という多読教材を使い、読んだり書いたりする活動を行っている。この日も、あいさつの後に*Oxford Reading Tree*のテキストを配付し、なぞり読みをした後、音声聞きながら穴埋めプリントに単語を書き込んでいった。短時間学習は、手順がある程度決まっているため、皆スムーズに次の活動に入っている。子どもたちの集中力は途切れることなく、15分の学習が終わった。



短時間学習の様子。子どもたちも石澤先生も元気いっぱい。

教師どうして授業を見合う

楽しく授業を進行していた石澤先生だが、「短時間学習を始めた頃はどうか教えていいかわからず、試行錯誤する日々でした」と話す。

短時間学習を導入した当初は、まず英語主任の教師が中学年以上の各クラスに入って、15分の授業を実際にやってみせたそうだ。その後は、各学級担任が、他のクラスの授業を見に行くなど、教師どうして学び合いながら授業づくりをしていった。石澤先生も「他の先生の授業を見に行ったことが、自分の授業を考える際にたいへん役立った」と語る。

尾久六小の 手作り教具 あれこれ



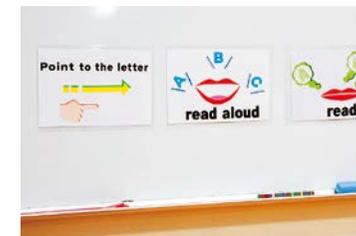
※今回の授業でも使われた4線のボード。使用頻度の高い教具だ。



ミニホワイトボードに、4線を書いた透明のシートを貼ったもの。児童一人に1枚用意。



英語教室にはロッカーがあり、学習内容別に教具を収納。教具は引き出しごと持ち出して活用している。



授業中によく出す指示を、パウチ加工してマグネットを付け、黒板に貼れるようにしている。



特集
授業時間、
どう確保する?

「教具には、なるべく他の授業を見に行くように言っています。そこから学べることは多いでしょうから。45分授業を見に行くのは時間的に難しいですが、15分だったらなんとか時間がつくれます。また、低学年の担任や専科の教員にも、授業見学を勧めています。いつ、その教具が短時間学習を任されるかわかりませんがね」と、石塚校長は話す。

手作りの教具を活用

また、同校で目を引くのが、手作りの教具だ。石澤先生は授業の中で、4線が書かれたボード（※上写真参照）を使っていたが、実はこれも手作り。白いマグネット板に、4線を書いた透明のシートを貼って作ったそうだ。英語教室には、さまざまな教具が用意されており、教師は授業内容に応じて、適宜活用する。

ただ、短時間学習は一斉に授業が行われるため、教具が足りず困る場面もあるそうだ。今までは、1クラス分作って使い回していたが、短時間学習では5・6年で4クラス分必要となる。今後は、教具の数を多めに用意していかなければならない。

短時間学習がスタートして半年が過ぎた同校。今後、15分という限られた時間をどのように深化させていくか楽しみだ。



合間にジャンケンをする時間を入れるなど、短時間でも子どもたちを楽しませる工夫をしている。

時間の設定

- 5・6年▶週1時間(45分)+短時間学習(15分)×週3回
- 3・4年▶週1時間(45分)+短時間学習(15分)×週1回
- 1・2年▶週1時間(45分)

短時間学習は、昼休みと5時間目の間(13:30~13:45)に設定。もともとこの時間は、漢字や計算のドリル練習等を行う「マスタータイム」として使っていた。週5回の「マスタータイム」のうち、高学年は3回、中学年は1回を英語の短時間学習に充てることに。

ここを工夫

- 教師が他のクラスの授業を積極的に見学し、授業改善につなげる。
- スムーズに授業が進められるよう、手作りの教具を活用。



事例2

京都教育大学附属桃山小学校

小さな活動を組み合わせたメリハリのある授業

週2時間(45分×2)

あつという間の45分

「やったー!」。5年生の教室から、どよめくような子どもたちの歓声。ここは京都市伏見区にある京都教育大学附属桃山小学校。英語の授業では、いつも楽しいゲームが行われ、子どもたちの明るい声が廊下まで響き渡っている。

文部科学省の外国語教育強化地域拠点事業の拠点校に指定されている同校では、2014年度より高学年において「英語科」を新設し、教科として週1時間(45分)の英語の授業を行っている。さらに2015年度からは時数を増やし、週2時間(45分×2)の授業を行っている。

「短時間学習を行うことも検討しましたが、朝の時間は全学年で取り組んでいる20分の『スピーチタイム』があるため、組み込むことが難しかったんです。それに、細切れで短時間学習を行うよりも、10~15分程度の小さな活動を、45分授業の中でつながりを意識しながら行ったほうがよいのではと考え、総合的な学習の時間を週1時間、英語に充てることにしました」と語るのは、英語専科の山川拓先生。



英語のゲームで盛り上がる5年生の子どもたち。

この日見学させてもらった5年生の授業は、単元『『夢の時間割』を作ろう』の第3時。この単元では、将来なりたい職業のためにどんな勉強をしたらよいか考えて「夢の時間割」を作る。そして、単元の最後には全員の前で発表をするという。

本時では、毎時間行っている、歌と「Today's Letter」の活動の後に、時間割を作るために、教科名をおさらいする活動を設けた。「ただフラッシュカードで教科名を読み上げていくのでは、子どもたちはすぐに飽きてしまいます。で

すから、全員で教科名を確認した後に『キーワードゲーム』(※)を入れることにしました」。先生のねらい通り、子どもたちは大興奮で取り組んでいた。ゲームの後は、異文化理解のために、海外の子どもたちの学校生活を紹介したりスニング教材を使って、聞き取りの活動を行った。その後、動画を視聴。メリハリのある楽しい授業に、45分があつという間に感じられた。

TTで柔軟に授業を進行

同校の英語の授業は、山川先生、ALT、学級担任の3名で行われる。山川先生は授業のコーディネートや教材作りを担当、ALTは授業の進行や発話を担当、学級担任は机間指導をしたり、デモンストレーションをしたり、時には一つのコーナーを担当したりする。

「学級担任には、他校に異動になっても困らないよう、一人で授業ができる力をつけてほしいと思っています」と山川先生は話す。その思いを汲むかのように、5年担任の若松俊介先生は、子どもたちの反応を見ながら、ALTのサポートに入ったり、机間指導をしたり、柔軟に動いていた。3人の先生の絶妙なチークワークによって、笑い声の絶えない楽しい45分授業が生み出されているのだと実感した。

※キーワードゲーム
ペアになって二人の間に消しゴムを一つ置き、手を頭の上に乗せる。教師が言う単語を発音し、教師がキーワードを言ったら素早く消しゴムを取り合う。



奥から順に、ALTのJason先生、山川先生、担任の若松先生。

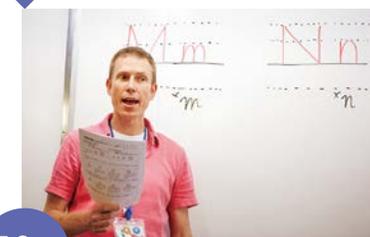
本時の流れ(45分)



5分

あいさつ&歌

今日の天気、日付、曜日など確認した後、みんなで英語の歌をうたう。



10分

Today's Letter

アルファベットを学習するコーナー。この日はMとN。発音を確認し、なぞり書きをした後、MとNで始まる単語を集めた。



15分

教科名を確認

既習の教科名をおさらい。「キーワードゲーム」で大盛り上がり。



15分

異文化理解&自己評価

海外の学校生活を紹介した音声聞き取った後、内容をみんなで話し合った。その後、動画を視聴。「自己内省シート」で今日の授業を振り返って、終了。

時間の設定

5・6年▶週2時間(45分×2)

3・4年▶週2時間(45分×2)

1・2年▶週1時間(45分)

総合的な学習の時間の一部を充てて、上記の時間を確保している。

ここを工夫

●10~15分の活動を組み合わせて、45分授業を構成。

●TTでは役割分担を決め、補完し合いながら授業を進行。



特集
授業時間、
どう確保する?



事例3

秋田大学教育文化学部附属小学校

45分授業とのつながりを意識した短時間学習

年間55時間(45分)+短時間学習(15分)×週2回

45分授業と連動した15分

「短時間学習は、45分授業とのつながりを大事にしています」と話すのは、秋田大学教育文化学部附属小学校(秋田県秋田市)で、5年生を担当する石田智之先生。もともと英語の専門ではないが、日本人学校での勤務経験などから国際理解教育に関心が高く、今は「外国語活動部」として、全学年の年間指導計画の作成等を行う。

同校では、2007年度より5・6年だけでなく、1~4年でも余剰時間を使って「英語活動」を実施。5・6年生では、週2時間(45分×2)の「外国語活動」を実施している。さらに、2014年度より、これまで全学年で週5回、朝の15分間「チャレンジタイム」として国語や算数のドリル練習等をしていたうちの2回を、外国語活動の短時間学習に充てている。

同校の特徴は、短時間学習を45分授業の内

容と連動させている点だ。そのため時間設定も工夫しており、高学年の場合、火曜と水曜に行われる短時間学習を挟むような形で、月曜と金曜に45分授業を設定している(P11 下図参照)。

5年生の単元「他のクラスの『好きな○○ランキング』を探ろう」を例に見てみよう。この単元は、"What ___ do you like the best?" "I like ___."という既習表現を使って、友達に好きなものをインタビューし、グループごとにクラスの好きなものランキングを作成。その後、他のクラスの児童に "What's this?" "It's a ___."という新出の表現を使って、ランキングクイズを出題するという内容である。短時間学習では、45分授業でやりきれなかったインタビューを行ったり、ランキングの集計をしたりする。

短時間学習の冒頭で、石田先生が「前の時間の続きをしますよ」と投げかけると、子どもたちが、すかさず「インタビューだね!」と言



短時間学習では、友達に既習表現を使ってインタビュー。

い、活動に取りかかっていたのが印象的だった。45分授業とのつながりを子どもたちもしっかり意識しており、やるべきことがわかっている。そのため、15分をいっぱい使って、楽しそうに友達にインタビューをしたり、ランキングの集計をしたりしていた。

たくさんの人と交流できる時間

また、この単元の最後には、他のクラスに出向き、ランキングクイズを行うそうだ。「短時間学習のよい点は、全校一斉に行うため、他のクラスや他学年と交流できること。例えば、5年生が外国語活動の時間に手作りした英語のゲームを使って4年生と一緒に楽しんだり、6年生が1年生を招待して英語劇を披露したりしたこともあります」と石田先生。

同校が短時間学習を取り入れて丸3年が経つ。導入した当初は、初めてのことにとまどう先生



グループでインタビュー結果を集計。表情は真剣そのもの。

も多かったが「子どもと一緒に学んでいこう」という気持ちで取り組み、現在のスタイルに落ち着いた。

外国語活動では、何よりコミュニケーションを大事にしたいと石田先生は話す。45分授業と連動した短時間学習の活用は、子どもたちのコミュニケーション力を確実に伸ばしているに違いない。



45分授業では、ALTと一緒に新出の表現を学ぶ。左が石田先生、右がALTのMark先生。

時間の設定

- 5・6年 ▶ 年間55時間(45分)+短時間学習(15分)×週2回
- 3・4年 ▶ 年間15時間(45分)+短時間学習(15分)×週2回
- 1・2年 ▶ 年間6時間(45分)+短時間学習(15分)×週2回

短時間学習は、朝の15分間(8:30~8:45)を使って火曜日と水曜日に全学年一斉に行う。

5・6年は、委員会活動のない月曜日6校時にも外国語活動を行い、短時間学習と合わせて年間70時間以上を確保。

月曜日が祝日となったり、短時間学習の時間帯が学校行事と重なったりしても、無理なく70時間程度実施できる計画となっている。

ここを工夫

- 短時間学習は、45分授業とのつながりを意識した内容に。他のクラスや他学年と交流する場としても活用。



高学年の活動イメージ

